第４分科会　知性・創造性

研究課題

知性・創造性を育む
教育課程の編成と校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

学校教育には，子どもたちに「生きる力」を育むため，特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識や技能の習得，課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成，主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることが求められている。

そのため，各学校においては，学習指導要領の内容を十分に踏まえ，地域や学校の実態に応じた教育課程を編成，実施するとともに，その結果についても子どもたちの姿を通して評価し，改善を不断に進めることが必要である。

とりわけ，北海道の子どもたちの学力の傾向については，各学校の授業改善が進む中で，成果が現れつつあるものの，課題が多いことも指摘されている。こうした状況の中，８月から『オール北海道で目指す目標』の５期にわたるロードマップの第４期目がスタートしたところである。マップに示された取組の目標や具体化の道筋について，改めて校長は主体的に受け止め，自校で実行していく使命を自覚しなければならない。

今、学力向上は，一校を預かる校長としての責務であることを共通に認識し，研究課題の解明に当たりたい。

Ⅱ　研究発表と研究協議

1　研究発表

「確かな学力を育成できる学校づくりに向けた
校長の在り方」
日高地区　日高町立門別小学校　久住　　勉

(1)　研究のねらい

○学校改善プランの実効性を高め，子どもに基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，新しい知恵を生み出す原動力を培う校長の指導性を明らかにする。

(2)　研究の視点

◎実効性のある教育課程の編成・実施・管理に向けた校長の指導性（教育課程）

○より実践力のある学校づくりに向けた校長のリーダーシップ（学校経営）

(3)　研究の仮説

◎校長が自校の課題を明確にし，有効な学力向上策を機能させることにより，教育活動の効果が高まるであろう。（教育課程）

○校長が校内外の組織やシステムの整備，職員の意識改革を推進することにより，学力向上に向けた学校体制が強化されるであろう。（学校経営）

(4)　研究の進め方

○各町校長会が「教育課程」と「学校経営」に分かれ，町校長会レベル，各校長レベルの取組を明確にして研究課題の究明にあたる。

(5)　「日高まなびパワーアッププラン」について

○平成22年度，地区校長会からも参加し「日高管内確かな学び推進会議」が開かれ，わかる喜びのある授業づくりのために四つの観点が提示された。

- ノート指導の工夫
- 体験的，問題解決的な学習の充実
- 繰り返し指導の改善
- 家庭との連携

(6)　取組の具体

①校長レベルでの取組（Ａ小学校）

- 学校改善プランと経営計画との整合性が図られている。
- 日高まなびパワーアッププランの方策の中から，自校の課題に必要なものが明示されている。
- 取組の担当者と取組の時期も明確にしている。

②町校長会レベルでの取組（Ｂ町）

- 町内の教育向上対策委員会から出された方策を各校が共有し，取り組んでいる。
- 定着を意図した授業改善のため，教科の観点ごとに到達目標を決めている。
- 基礎到達目標を受け，各校では校長の指導のもと，達成基準を定める。

③指導力の向上に向けた取組（C町）
- 校内研修の充実
- 町教育委員会と連携した現職教員研修会の実施
- 学校職員評価制度や学校評価の活用

④家庭学習習慣の確立に向けた取組（D町）
- 各学校の「家庭学習の手引き」などの交流
- 「家庭学習時間調査」を町内全校で実施

(7) 成果と課題

①成果

○確かな学力の定着のために，地区校長会として組織的に方策の具体を検証することにより，教育課程の改善を図る校長の指導性が明確になってきた。

○実効性のある学校改善プランとするために，「日高まなびパワーアッププラン」を位置付ける学校が増えることにより，校内研修の充実とともに授業改善を目指す校長の指導性が明らかになってきた。

○言語活動を取り入れた授業改善のために，学校職員評価制度の面談や日常的な授業参観で個別の指導を行うことにより，教育課程の改善を図る校長の指導性が明らかになってきた。

②課題

○教科の年間指導計画のより一層の改善のために，言語活動や学習評価を位置付けるなど，課題を明確にした方策を具体化する校長の指導性が必要である。

○教育課程のより一層の改善のために，「繰り返し指導」を明確に位置付けるなど，年間指導計画の見直しを学校評価の観点にする方策を示す校長の指導性が必要である。

○学びの環境づくりのために，学習習慣の確実な定着や生活習慣の確立を図るなど，町教育委員会と連携を深め，保護者と共通認識に立った取組を具体化する事が必要である。

○大幅な校長交代期に対応するために，組織的に学校経営や教育課程の編成に関わる資料の累積など，長期的な展望をもった地区校長会の組織的な取組が必要である。

2 研究協議

(1) 学校改善プランは管理職が作成しているところが多い。改善プランが，「職員みんなのものになるにはどうしたらいいか」にエネルギーを使った方がいい。

(2) 学校改善プランの見直しについては，各学校の実態に即して取り組んでいる。ある学校を例にすると，4月の段階で，過去のデータから今年度の方向性を示しているので，今回，新たなデータが出たからといって改善プラン全体を見直すことはしない。ただ，個々に対しては，学習改善点を明らかにし，指導に生かしている。

(3) 「日高まなびパワーアッププラン」（資料）から
- 家庭との連携は，地域によって違いがあるが，町全体で取り組むという意識をもつことが大切である。また，A町に勤務していた先生がB町に転勤し，A町での取組をB町でもはじめ，管内全体に広まっていくということがあるだろうと考えられる。ただし，同じようにいくとは限らないが，校長が同じスタンスで取り組んでいるという姿勢を先生方にも保護者にも見せていくことが実は大切である。
- 異校種間の連携では，教育向上対策委員会を設置している。ここでは，学力調査の分析や，小中高それぞれにおける学力の到達目標を設定し，各学校で具体的に授業改善を図っている。また，評価テストを年2回，同学年で実施し，到達目標の達成度を測る目安を得る資料作成をしている。

3 グループ協議

(1) 学習習慣の確立には家庭の教育力が反映する。また，学校での取組例としては、子育てプランの作成や生活チェックシート（道教委）を活用している。他に，学習規律の指導に重点を置いて学習習慣の確立にリンクさせている学校もある。

(2) 教育活動に校長が創意工夫しながらどう指導性を発揮するかについて話し合った。児童の言語活動の充実と家庭と連携した学習習慣の確立に課題があるとの考えが一致した。解決策としては，校長の指導性を発揮し，組織を活性化したり，教務がリーダー性を高めたりすることが大切である。

(3) 確かな学力を育成するための校長の指導性については，教員の意識向上を図るため，日常的に研修を行い，実践と成果と課題を共有化すること，学校という組織体が，組織としての指導に一貫性や系統だった取組を大切にすることなどが重要である。

(4) 学力の向上については，授業力の向上，授業改善，教員の意識改革が欠かせない。校長は，教師によい刺激を与える役を担っている。

(5) 教師に経営参画意識をもたせるため，校長は，サーバントリーダーシップの発揮が求められる。

(6) 校長会レベルでの連携・情報発信等が重要である。

Ⅲ まとめ

子どもたちが様々な変化や課題に立ち向かい乗り越えるためには，自ら獲得した知識・技能の中からその状況に応じて必要なものを活用し，先の見通しをもって課題を解決していこうとする柔軟な思考や粘り強さ，先見性を身に付けることが大切である。

1　学力向上に対して果たすべき校長の役割と指導性について

(1) 提言内容から

・課題の明確化に当たっては，累積されている過去の調査結果をもとに，自校の課題を校長自身が把握すること。

・取組の方向性を明確にするためには，重点課題をもとに担当者，取組時期を明確にした方策を職員に提示すること。

・役割の明確化については，教頭を指導し，全校が組織的に対応できる体制づくりを行うようにすること。

・指導力の向上に当たっては，授業参観を行い，教師個々に応じた具体的な指導に努めること。

(2) 学力向上に向けた目標設定について

・具体的なものになっているか。

・何らかの評価基準によって測定が可能か。

・タイムスケジュールがあり，進行管理が適切か。

・適切に評価され，改善されているか。など

こうして設定された目標をこれまで以上に明確に示した上で達成状況を検証し，改善に生かしながら教育の質を保障していくことが求められている。

(3) 学力向上に向けた教員の資質向上や授業改善について

・指導力のある教諭を研究部長に配置し，自ら実践する姿を他の教員に見せ，校内研修を活性化させたなどの実践が紹介された。

2　「学校力」の強化について

・教室環境の整備や学習規律の確立などは，効率的かつ効果的に教育活動を行う上で必要不可欠である。各管内では，学習規律の徹底など，学校全体で取組成果を上げつつある。そうした優れた取組を積極的に取り入れたい。

3　学力向上に向けた小・中の連携について

・学力向上という軸足をしっかりと持ち，授業参観をはじめとする教師間の交流や指導の乗り入れなどを広げていく。

4　学力向上に向けた家庭や地域との連携について

・家庭学習の取組は，学校ぐるみで，市町村単位で進められている。さらに家庭や地域との連携も一層強化し，学習の環境を整える必要がある。

5　研究発表及び研究協議の成果と課題

【成果】

(1) 学力向上に向けた具体的な数値目標の設定など，管内や市町村レベルで一体となった取組が推進されている。

(2) より具体的な目標を設定し，進行管理を意識した学力向上プランが作成されてきている。

(3) ＴＴ加配やボランティア等，指導者の確保に努め，学習支援体制が整いつつある。

【課題】

(1) 学習習慣や生活習慣の改善のため，学校の方針を積極的に発信し，家庭・地域と連動した学力向上の取組

(2) 学力向上に結びつくスピード感のある取組

(3) 校長のビジョンを理解し，学力向上に向けた組織として機能する学校体制の整備

(4) 落ち着いて学習に取り組むことのできる教室環境の整備や効率よく授業を進めることのできる学習規律の確立

「第４分科会に参加して」

平取町立二風谷小学校　**千　葉　竜　美**

第４分科会では，①「しなやかな知性と豊かな創造性の育成」②「しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善」の二つの視点で校長のリーダーシップの発揮とその関わり方について討議を深めました。

冒頭，分科会の趣旨説明が行われ，続いて日高町立門別小学校の久住校長から，日高管内の取組が発表されました。「日高管内確かな学び推進会議」でわかる喜びのある授業づくりのために①ノート指導の工夫②体験的・問題解決的な学習の充実③繰り返し指導の改善④家庭との連携の四つの観点ごとに二つの方策が示されたこと，そして各学校が学校改善プランにこの方策を位置付け，教育課程の改善に取り組んでいることが紹介され，参加者一同で深め合うことができました。

その後のグループ協議では，学校規模が異なりつつも学校教育の課題に正対し，揺るぎない信念と手立てを講じ，教職員の指導力向上と学校改善に努めている校長先生方に触れることができました。

今後の学校経営に生かせる充実した分科会運営にご苦労をいただいた皆さんに感謝致します。